



きじむんの

とっ~ちゃむにい~ 文庫紹介編

第9回 矢内原忠雄文庫

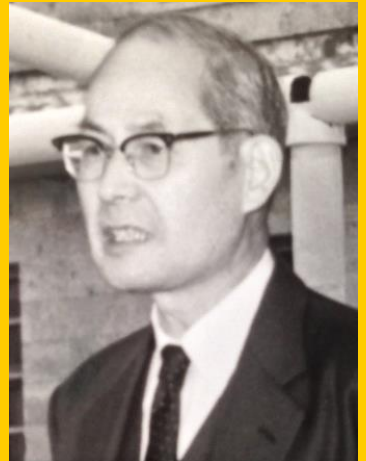
キーワード：矢内原忠雄 新渡戸稲造 内村鑑三 民主主義 植民政策学

はいさーい、きじむんやいびーん！今年も残すところあと1か月。「月(ちち)や馬(んま)ぬ走(はい)」(馬がかけ
ていくように月日は早くすぎる、光陰矢のごとし)だね。今月は、矢内原忠雄文庫を案内するよ。

●矢内原忠雄 (やないはら ただお、1893-1961 愛媛県生まれ)

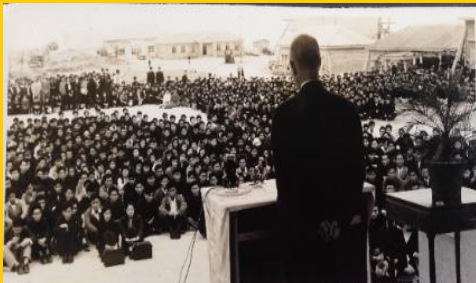
矢内原忠雄は日本の経済学者、植民政策学者、教育者、キリスト教伝道者。

第一高等学校(一高)、東京帝国大学で学びました。一高時代に出会った新渡戸稲造(教育者・思想家)と内村鑑三(キリスト教思想家)は矢内原の学問や思想、信仰に大きな影響を与えました。大学卒業後は民間で働いていましたが、その後東京帝国大学で教鞭をとり、植民地政策を講じました。軍国主義の高まる中、国家の植民地政策や軍国主義を批判した論文を書いたとされ、1937(昭和12)年に辞職に追いやられました。



矢内原 忠雄

辞職後も著作を削除や発禁にされましたが、それに屈せず民主主義を主張し続けました。終戦後は請われて東大に復帰、1951(昭和26)年、第16代東京大学総長となりました。任期最後の年の1957(昭和32)年1月に琉球大学と沖縄県教職員組合の招きで来沖し、5日間にわたって本島各地で講演を行いました。東大退職後もキリスト教の伝道や学生の教育に力を注ぎました。日本の民主化と平和のために献身した人物でした。



琉球大学での講演の様子 (1957.1月)

●琉球大学附属図書館の矢内原忠雄文庫

矢内原忠雄文庫は、1987(昭和62)年と1995(平成7)年の2度にわたって本学へ寄贈されました。寄贈は池間誠の熱い思いと、彼を支えた人たちの協力によって実現しました。池間は矢内原が来沖した際の講演を聞いた一人でした。当時中学生の彼は講演に感銘をうけ、矢内原と同じ学問を志しました。池間は矢内原の考えを沖縄に残したいと強く思い、矢内原の蔵書等を琉大図書館へ寄贈することを、矢内原の息子である矢内原勝に提案しました。勝は矢内原が沖縄に対して深い関心をもっていたことや、沖縄の地理的・歴史的背景を考えて、南洋群島調査資料関係の図書と直筆原稿等を寄贈しました。その後附属図書館の第3回貴重書展「矢内原忠雄文庫南洋群島関係」の開催をきっかけに、追加寄贈がなされました。(↓寄贈の詳細な経緯については附属図書館の沖縄資料室ウェブサイトをご覧ください)



植民地関係資料データベース

矢内原文庫には846点(1回目に647冊、2回目に199冊)の矢内原の蔵書や自筆原稿、ノート類が収められています。社会科学分野、歴史、宗教の資料が主で、なかでも『植民及び植民政策』、『南洋群島の研究』の原稿、樺太、満州、朝鮮、台湾、南洋群島といった戦前の日本の旧植民地・占領地についての資料は貴重です。附属図書館の沖縄資料室ウェブサイトにある「矢内原忠雄文庫 植民地関係資料データベース」では、当館が所蔵する矢内原忠雄文庫のうち、南洋群島を主とした植民地関係の資料の画像を見ることができます。ぜひアクセスして下さいね(AH)



参考文献：鴨下重彦ほか『矢内原忠雄』東京大学出版会、2011年。

矢内原忠雄『私の歩んできた道』日本図書センター、1997年。

矢内原伊作『矢内原忠雄伝』みすず書房、1998年。

琉球大学附属図書館 沖縄資料担当 平成28年12月1日